

提出順	11	発言順	9	令和4年11月28日
				午前・午後 9時19分受領

(2枚中 №1)

令和 4年 11月 28日

(宛先) 安曇野市議会議長 平林 明

安曇野市議会議員

橋本 裕二

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和4年安曇野市議会 12月定例会		
発言の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 問一答	<input type="checkbox"/> 一括質問一括答弁	質問時間 20分
答弁を求める者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 副市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 他 ()		
	担当部長 <input type="checkbox"/> 総務部 <input type="checkbox"/> 政策部 <input type="checkbox"/> 市民生活部 <input type="checkbox"/> 福祉部 <input type="checkbox"/> 保健医療部 <input type="checkbox"/> 農林部 <input type="checkbox"/> 商工観光スポーツ部 <input checked="" type="checkbox"/> 都市建設部 <input type="checkbox"/> 危機管理監 <input type="checkbox"/> 上下水道部 <input type="checkbox"/> 教育部 <input type="checkbox"/> 他 ()		
質問事項	生垣設置補助金について		
質問の要旨 (具体的に記載してください) <ol style="list-style-type: none"> 1. 生垣設置補助金の補助条件として「樹種は2種類以内」となった経緯は。 2. 生垣設置補助の考え方を拡大し、若い人達にも人気のある「雑木の生垣(雑木の庭)」づくりを支援できるよう、2種類以上の樹種を認めたり、植栽する苗木の間隔や樹高の制限を緩和することは可能か。 3. 緑あふれる住環境・まち並みを拡大していくことは目に見える地球温暖化対策であり、移住希望者に対して強力なアピールになると思われるが、生垣設置補助金を現行の5万円から引き上げることはできないか。 			

提出順	11	発言順	9	令和 4 年 11 月 28 日
				午前・午後 9 時 19 分受領

(2 枚中 № 2)

令和 4 年 11 月 28 日

(宛先) 安曇野市議会議員 平林 明

安曇野市議会議員

橋本 裕二

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 4 年安曇野市議会 12 月定例会		
発言の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括質問一括答弁	質問時間	20 分
答弁を求める者	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 副市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 他 ()		
	担当部長 <input type="checkbox"/> 総務部 <input checked="" type="checkbox"/> 政策部 <input checked="" type="checkbox"/> 市民生活部 <input type="checkbox"/> 福祉部 <input type="checkbox"/> 保健医療部 <input type="checkbox"/> 農林部 <input type="checkbox"/> 商工観光スポーツ部 <input type="checkbox"/> 都市建設部 <input type="checkbox"/> 危機管理監 <input type="checkbox"/> 上下水道部 <input type="checkbox"/> 教育部 <input type="checkbox"/> 他 ()		
質問事項	なぜ若者や子どもが少ないのか。		
質問の要旨 (具体的に記載してください)			
1. 安曇野市に若者や子どもが少ない理由はどこにあるのか。 2. 若年層支援、また子育て支援の次なる一手は。(パートナーシップ宣誓制度への思いは。) 3. 都市部から安曇野市に移住してきた若い世代の移住パターンを研究されているか。都市部にいる子育て世代の声をいかに吸い上げ、いかに呼びかけていくのか。 4. 移住促進という観点からも市の教育の充実・広報は欠かせないが、現状関係部はどのように連携しているのか。市には自然保育がある。小学校以降の教育においてどのような独自性を打ち出していくのか。 5. 出生率を大幅に改善した自治体を徹底的に真似てみてはどうか。 6. 区で動き出した支え合い制度のアプリ化と、補助金での支援の可能性は。 7. 市長から市外に住む子育て世代、また若者へどのようなメッセージがあるか。			